取扱説明書

ご使用の前に
よくお読みください。

FREED

車いす仕様車

このたびはHonda車をお買い上げいただき、
ありがとうございます。
*この取扱説明書は、**FREED** 車いす仕様車に*
装備された専用機構の取り扱いについてのみ説明してあります。
*その他の内容については **FREED** 取扱説明書をご覧ください。*

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

お車に関することや、その他のアドバイスは下記の表示を使って記載しています。

アドバイス
お車のために守っていただきたいこと
（車が故障・破損するのを防ぐためのアドバイス、
異常事態の処置方法を記載しています）

知 識
知っておいていただきたいこと
知っておくと便利なこと

車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。

もくじ

各部の名称……3

安全ドライブのための必読ポイント……4

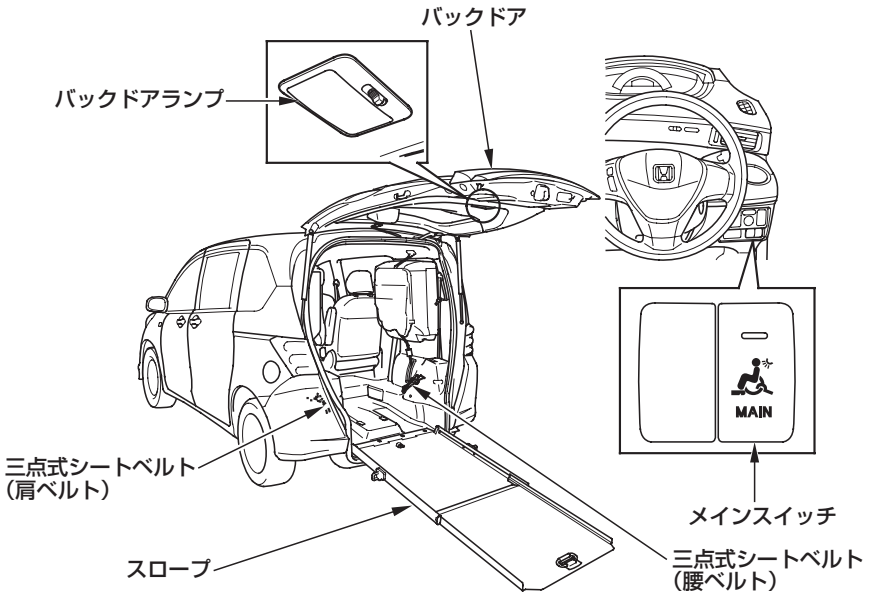
装備の使いかた
バックドア……6
バックドアランプ……7
サードシート……8
三点式シートベルト……12
車いすの乗せかた、降ろしかた……17

点検整備について
点検整備方式……29
日常点検……30

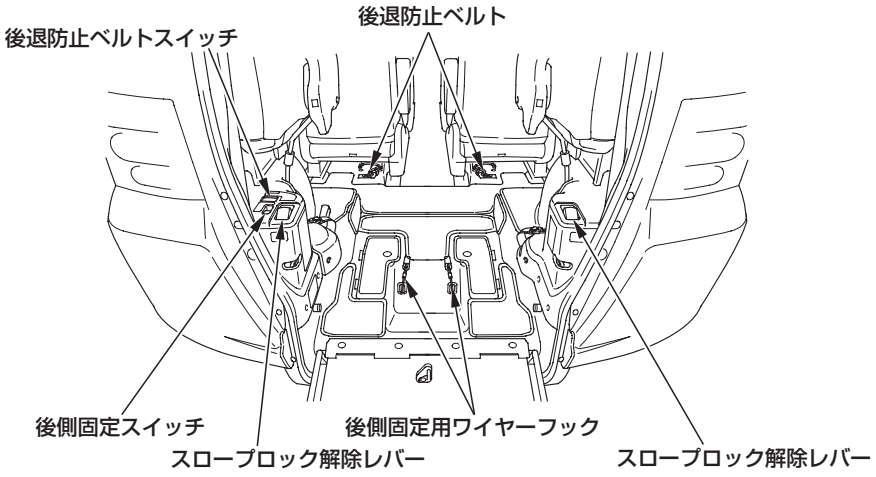
万一のとき
バックドアランプが点灯しないとき、
　後側固定用ワイヤーフック、
　　後退防止ベルトが作動しないとき……31
バックドアの解錠ができないとき……35

サービスデータ
サービスデータ……36
車いす乗車の目安……37

各部の名称



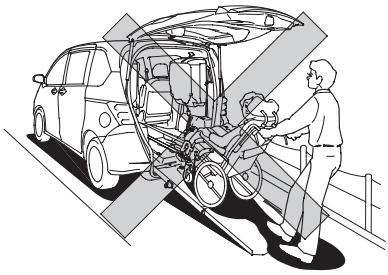
車いす固定装置まわり



安全ドライブのための必読ポイント

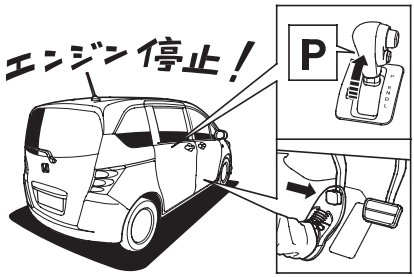
坂道での車いすの乗降や固定操作はしない。

- 車いすの乗降や固定操作は必ず平坦な場所で行ってください。
  坂道では、車や車いすが不安定になり、転倒や落下などにより思わぬけがをすることがあります。



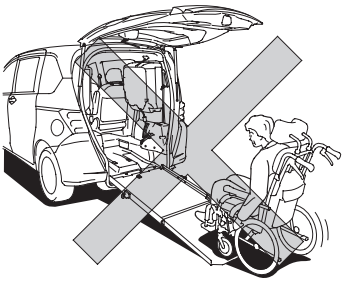
車いすの乗降や固定操作をするときは、エンジンを止めて。

- 車いすの乗降や固定操作をするときは、パーキングブレーキをかけてセレクトレバーをPに入れ、必ずエンジンを止めましょう。
  不意に車が動き出したりして、思わぬけがをすることがあります。



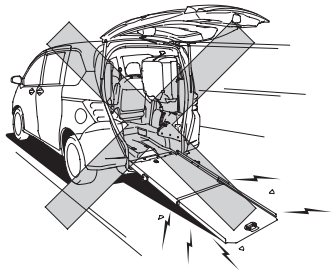
車いすの乗降や固定操作は介護する人が行う。

- 車いすの乗降や固定操作は、道路状況に注意し、介護する人が行ってください。
  車いすに座っている人が自力でスロープを走行したり、固定操作を行うと、スロープから落ちたり体の一部をはさんだりしてけがをするおそれがあります。



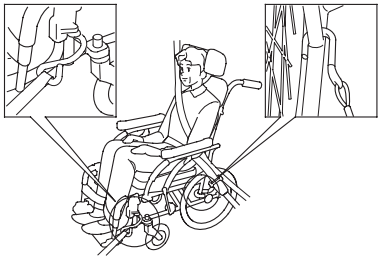
スロープを降ろしたままでの車の移動はしない。

- スロープや車両が破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



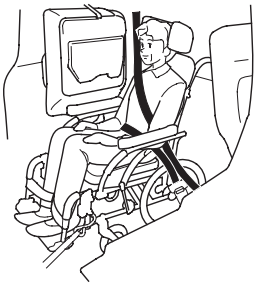
車いすは確実に固定。

●走行中に車いすが動いて倒れたりしてけがをするおそれがあります。



走行するときはシートベルトを必ず着用。

●車いすに座っている人にも必ずシートベルトを着用させてください。



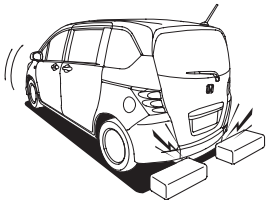
車いすはヘッドレスト付をおすすめします。

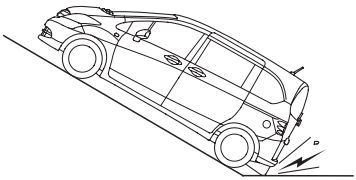
●思わぬ事故に備え、ヘッドレスト付の車いすをおすすめします。

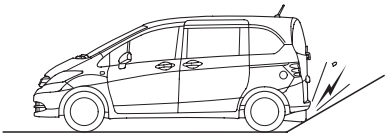
路面の段差などに注意。

●この車は、ベース車に対し最低地上高が低く設計されているので、次のような場合にマフラーや床下を損傷するおそれがありますので、十分に注意してください。

・車止めのある場所への駐車
・路肩に沿っての駐車
・路肩等段差のある場所への乗り降り
・平坦路から上り坂および下り坂から平坦路への乗り入れ
・凹凸やわだちのある道路の走行
・くぼみ(穴)のある箇所の通過







装備の使いかた

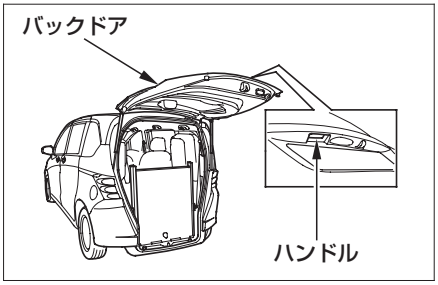
バックドア

●施錠・解錠

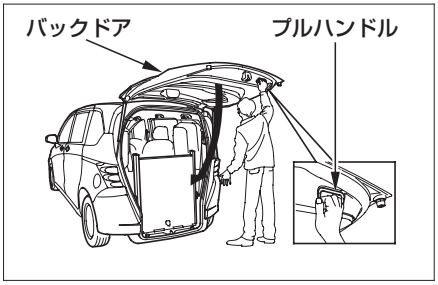
テールゲート　→FREED取扱説明書

●開閉

開けるときは、解錠してからハンドルを引き、静かに引き上げて開けます。
いっぱいに開いてお使いください。

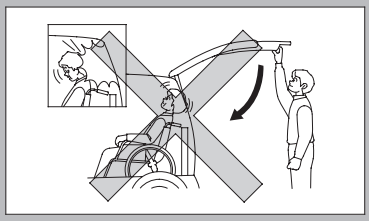


閉めるときはプルハンドルを利用してください。



⚠警告

●バックドアを閉めるときは、車いすに座っている人の頭にぶつけないように十分注意してください。



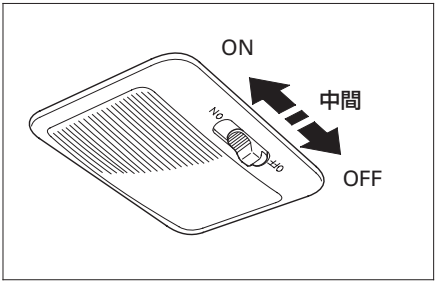
⚠注意

●バックドアを閉めるときは頭をぶつけたり、手などをはさまないように注意してください。
●エンジンをかけた状態で排気管の後方に立たないでください。
やけどなど思わぬけがをすることがあります。
●車いす乗車スペース内には確実に固定された車いすに座った人以外の人を乗せないでください。
ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。

知 識

●バックドアを開けたまま走行しないでください。車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

バックドアランプ



スイッチが“ON”または“中間”の位置

次の条件がそろったときに点灯します。

・セレクトレバーがPのとき。
・エンジンスイッチが“Ⅰ”のとき。
・メインスイッチが“ON”のとき。

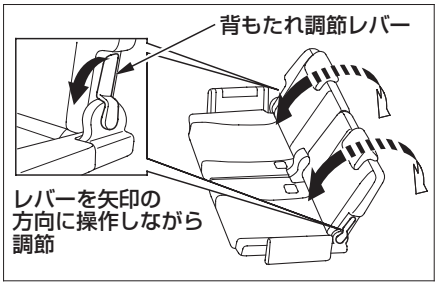
スイッチが“OFF”の位置

セレクトレバーやエンジンスイッチの位置、メインスイッチの“ON”、“OFF”に関係なく消灯します。

サードシート

タイプ別装備

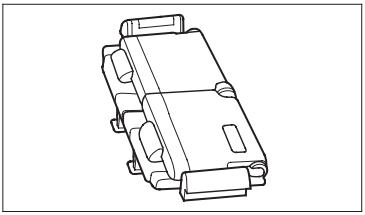
●背もたれの調節



片側ずつ独立して行えます。

知 識

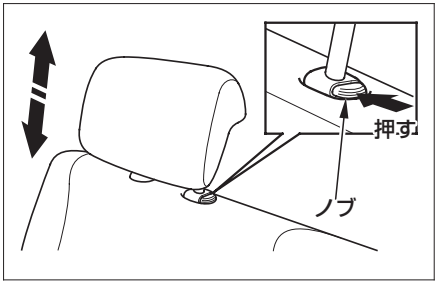
- 中央座席を使用するときは正しい乗車姿勢がとれるように、左右座席の背もたれの角度が同じになるように調節してください。
- 背もたれを前に倒した状態で荷物を乗せたり、人を乗せないでください。
  背もたれがこわれるおそれがあります。



●ヘッドレストの調節

サードシートに乗車するときは、走行する前にヘッドレストを引き上げて、確実に固定します。

下げるときは、ノブを押しながらヘッドレストを下げます。



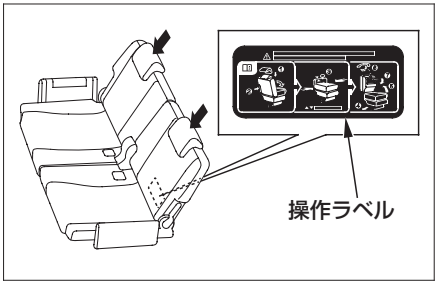
⚠警告

- サードシートに乗車するときは、ヘッドレストを下げた状態で走行しないでください。また、固定できる高さを越えて使わないでください。
  衝突のときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。
  走行前に必ず引き上げてください。

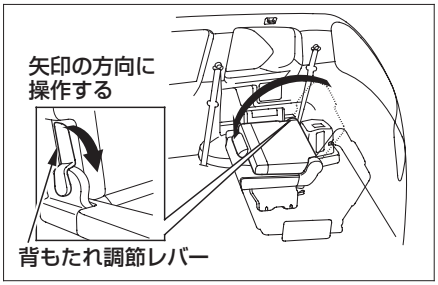
●シートをはね上げて固定するとき

①ヘッドレストを一番下まで下げます。

ヘッドレストの調節　→9ページ

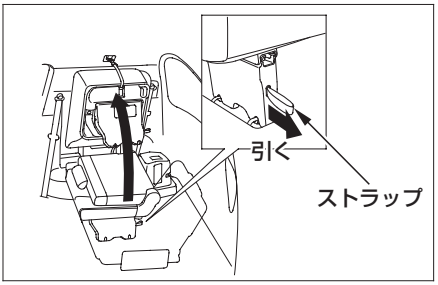


②背もたれ調節レバーを矢印の方向に操作しながら、背もたれを前へ倒し、固定させます。

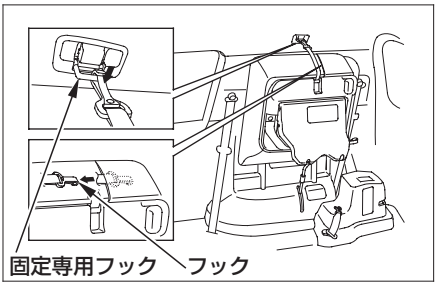


③シート下のストラップを引きます。

④シートを窓側に起こします。



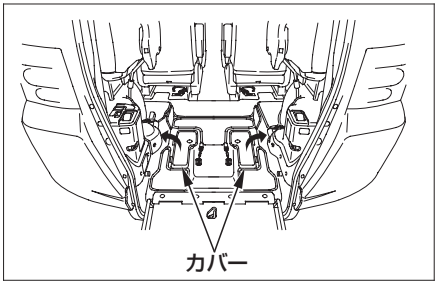
⑤シートのフックを外してグラブレール下の固定専用フックに確実にはめ込み、シートを固定します。



⑥床面のシート固定ストライカーのカバーを閉じます。

元に戻すとき

①床面のシート固定ストライカーのカバーを開けます。



②シートが倒れないように手で支えながら、シートのフックを固定専用フックから外し、シートに収納します。

③ゆっくりとシートを降ろし、“カチッ”と音がするまで押さえて固定します。

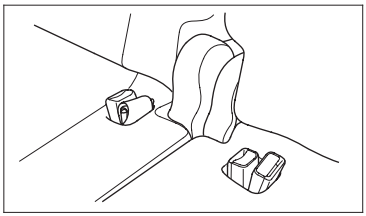
④背もたれを起こして、ヘッドレストを調節します。

⚠注意

- 操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意してください。
- 背もたれが急に戻り、顔などにけがをするおそれがあります。背もたれを起こすときは、必ず背もたれに手を添えて操作してください。

知 識

- サードシートの固定専用フックは、シートを固定する以外の目的で使用しないでください。
- はね上げたときや元に戻したときは、シートを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
- はね上げた状態で、シートやストラップに物をかけたり、ぶらさがったりしないでください。グラブレール下の固定専用フックが破損したり、シートのフックが外れることがあります。
- 操作は、ゆっくりと確実に行ってください。また、シートを元に戻すときは脚が戻されていることを確認してください。
- シートをはね上げて固定するときは、あらかじめバックルやタングプレートを収納してください。



三点式シートベルト

この車は、車いすに座っている人専用のELR付三点式シートベルトを装備しています。

ELR付三点式シートベルト：
体の動きにあわせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。

シートベルト　→FREED取扱説明書

⚠警告

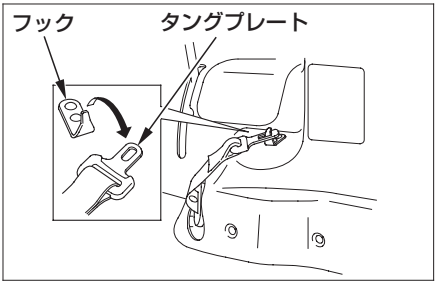
- 腰部のベルトと肩部のベルトを両方着用してください。腰部のベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にぴったり着用してください。肩部のベルトはベルトがくび、あご、顔などに当たらないように着用してください。正しく着用していないと、衝突したときなどに重大な傷害を受けたり死亡することがあります。

知 識

- この三点式シートベルトには、チャイルドシート固定機構は付いていません。

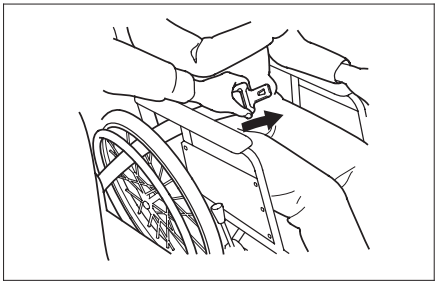
●腰部のベルトの着用のしかた

タングプレートをフックより取り外します。

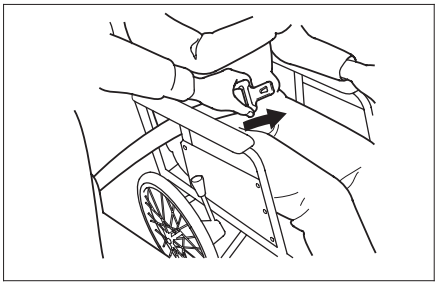


②タングプレートをつかみ、車いすの主車輪のスポーク、シート部側面の開口部を通します。

自走式の車いす



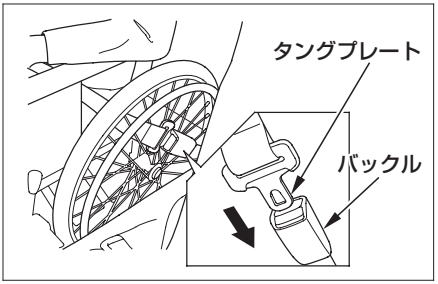
介護式の車いす



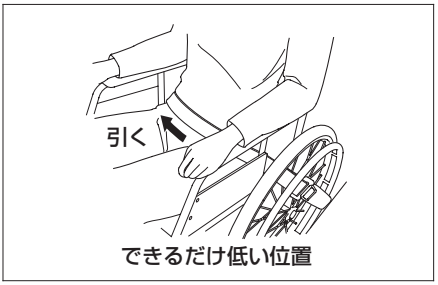
知 識

●車いすの種類によってシートベルトの通しかたが異なります。
図を参考にして、ベルトを通してください。

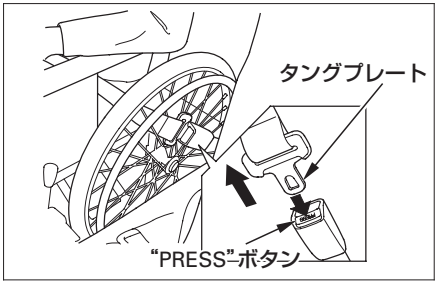
③ベルトにねじれがないようにし、タングプレートをバックルの中に“カチリ”と音がするまで差し込みます。



④ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかかるように戻し方向へ引き、たるみがないように身体に密着させます。

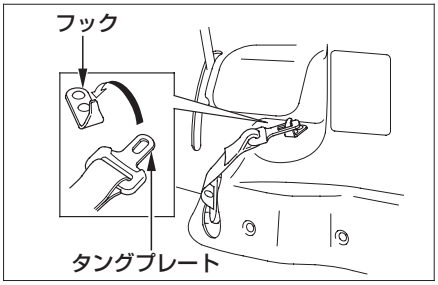


⑤外すときはバックルの“PRESS”ボタンを押します。
ベルトが自動的に収納されますので、タングプレートを車いすの主車輪のスポーク、シート部側面の開口部を通しベルトを外します。

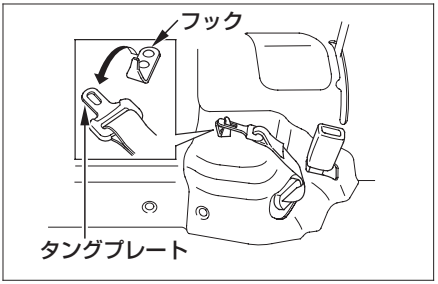


知 識
- ベルトが自動的に巻き取られますので、タングプレートに手を添えてゆっくり巻き取らせてください。

⑥ベルトを使用しないときは、タングプレートをフックに取り付けます。

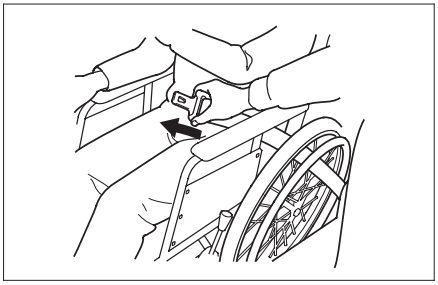


●肩部のベルトの着用のしかた
①タングプレートをフックより取り外します。

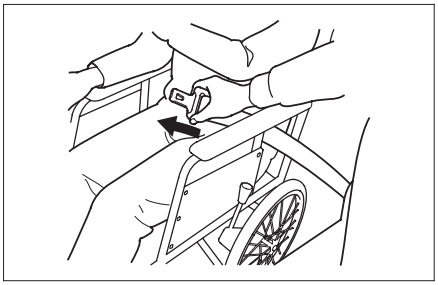


②タングプレートをつかみ、車いすの主車輪のスポーク、シート部側面の開口部を通します。

自走式の車いす



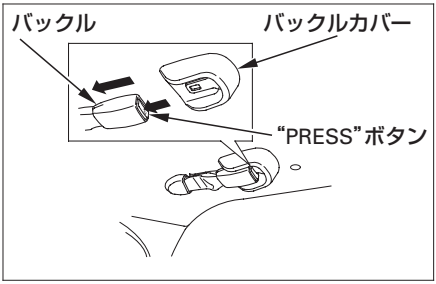
介護式の車いす



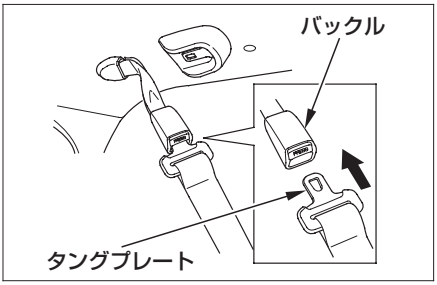
知 識

- 車いすの種類によってシートベルトの通しかたが異なります。
  図を参考にして、ベルトを通してください。

③バックルの“PRESS”ボタンを押して、バックルをバックルカバーより取り外します。

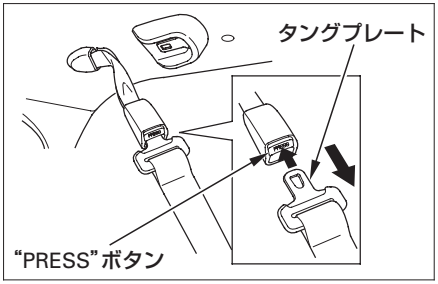


④ベルトにねじれがないようにし、タングプレートをバックルの中に“カチリ”と音がするまで差し込みます。



⑤ベルトがねじれたり、引っかかったりしていないかを確認します。

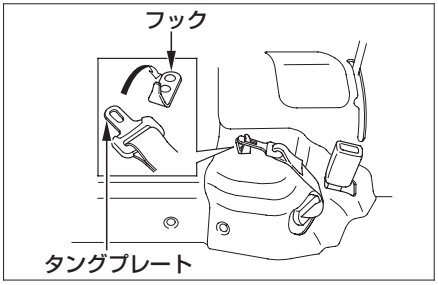
⑥外すときはバックルの“PRESS”ボタンを押します。
ベルトが自動的に収納されますので、タングプレートを車いすの主車輪のスポーク、シート部側面の開口部を通しベルトを外します。



知 識

- ベルトが自動的に巻き取られますので、タングプレートに手を添えてゆっくり巻き取らせてください。

⑦ベルトを使用しないときは、タングプレートをフックに取り付け、バックルをバックルカバーに取り付けます。



車いすの乗せかた、降ろしかた

⚠警告

- 車いすは必ず車いす固定装置で固定してください。確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどに車いすが動いたり、倒れたりして重大な傷害を受けたり死亡することがあります。

⚠注意

- 車いすの乗降や固定操作をするときは、パーキングブレーキをかけてセレクトレバーを[P]に入れ、必ずエンジンを止めてください。
  不意に車が動き出したりして、思わぬけがをすることがあります。
- 車いすの乗降や固定操作は介護する人が行ってください。
  車いすに座っている人が自力でスロープを走行したり、固定操作を行うとスロープから落ちたり、体の一部をはさんだりしてけがをするおそれがあります。

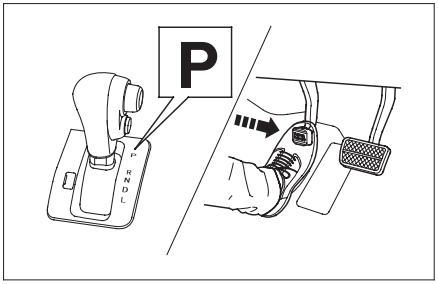
知 識

- 車いすの乗降や固定操作は平坦な場所で、周囲の安全を十分確認してから行ってください。
- スロープの耐荷重は200kgです。

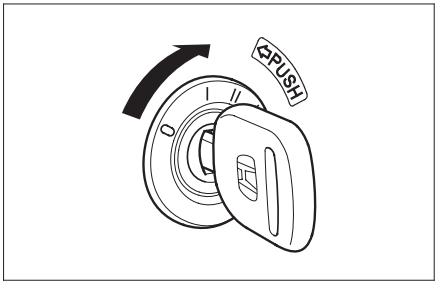
●車いすの乗せかた

1車いすを乗せる前に

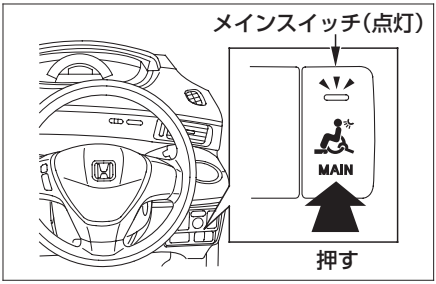
①パーキングブレーキをかけてセレクトレバーを🄿に入れます。



②エンジンスイッチを“Ⅰ”にします。



③運転席横にある車いす固定装置のメインスイッチを押して“ON”（ランプ点灯）にします。



2スロープを降ろす

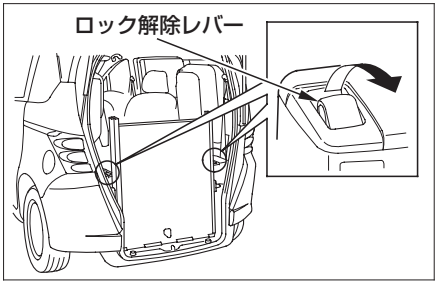
⚠注意

- スロープの操作は傾斜のない平らな所で行ってください。
- スロープを操作するときは手などをはさまないように十分注意してください。
- スロープは最後まで引き出した状態で使用してください。
- スロープに車いす以外の重い物を載せないでください。
  傷や破損などの原因となります。
- スロープを引き出した状態で車を走行させないでください。

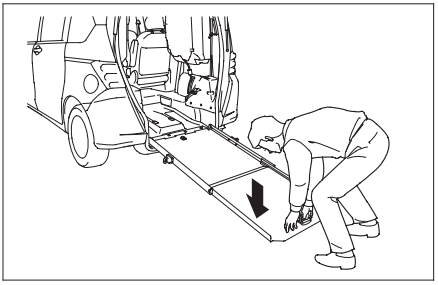
①バックドアを開けます。

→6ページ

②左右のスロープロック解除レバーを引いて、ロックを解除します。



③操作グリップを持って手前に倒し、スライド式のスロープを引き出し地面に降ろします。



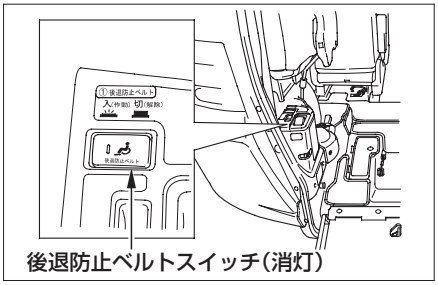
3車いすを乗せる

① **サードシート装備車**

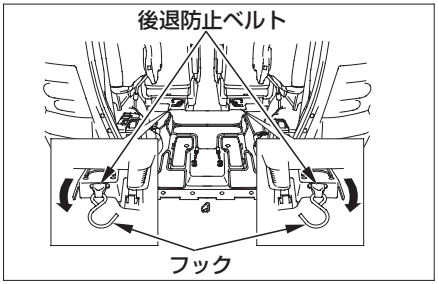
サードシートをはね上げ、床面のシート固定ストライカーのカバーを閉めます。

シートをはね上げて固定するとき
→10ページ

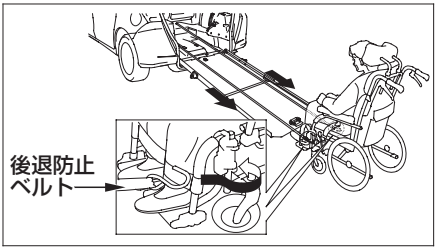
②後退防止ベルトスイッチが“解除”位置（ランプ消灯）であることを確認します。



③後退防止ベルトのフックをそれぞれの収納場所から引き出します。



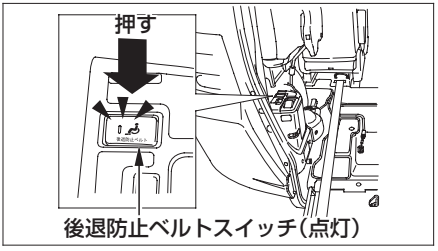
④後退防止ベルトを引き出して、ベルトがねじれないように車いすの前輪側の縦フレームに掛けます。



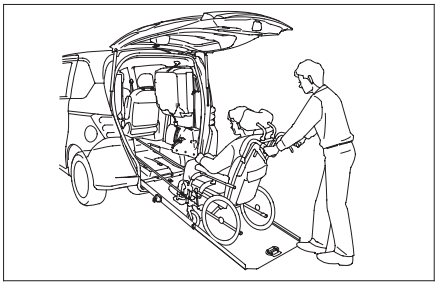
⚠注意

- 後退防止ベルトの操作は、後部座席付近に人がいないことを確認して行ってください。
- 後退防止ベルトを急に離すといきおいよく巻き取られますので、フック部を手に持ってゆっくりと巻き取らせてください。
- 後退防止ベルトを床面に放置しないでください。乗員がつまずいてけがをしたり、ベルトを傷めるおそれがあります。所定の場所に収納してください。

⑤後退防止ベルトスイッチを押して“作動”位置（ランプ点灯）にします。



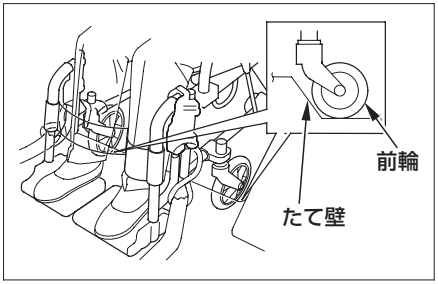
⑥介護する人が車いすをゆっくり押しながら、車内に乗せます。



知 識

●後退防止ベルトは、スロープの途中で介護する人が万一、手を離しても、車いすが後退しないようにロックがかかる機構です。

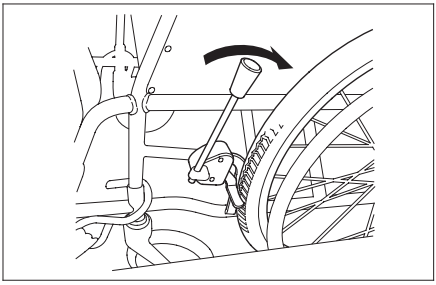
⑦車いすの前輪がフロアーのたて壁に当たる位置までゆっくり前進させます。



⚠注意

●車いすを車の所定の位置に乗せるときは、座っている人の頭や手足の位置を確認しながら行い、車両にぶつかったり、車いすとの間にはさまれないように十分注意してください。
また、介護する人が車両に頭をぶつけないように十分注意してください。

⑧車いすを前後に数回動かして、後退防止ベルトのたるみを取り、車いすのブレーキをかけ車輪をロックさせます。

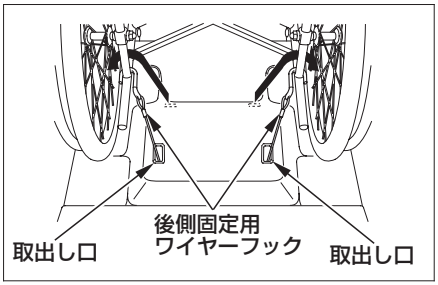


⚠警告

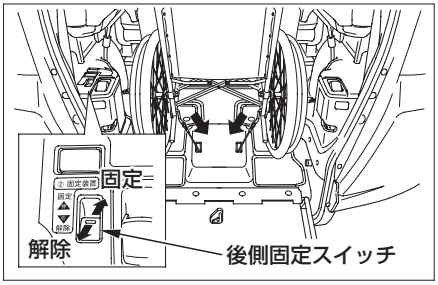
●車いす本体のブレーキを必ずかけてください。確実にかかっていないと、ブレーキや衝突のときなどに車いすが動いたり、倒れたりして重大な傷害を受けたり死亡することがあります。

4車いすを固定する

①後側固定用ワイヤーフックを取出し口から引き出して、車いす後側のフレームやフックに掛けます。



②後側固定スイッチを“固定”側へモーターの作動音が停止するまで押し続けます。



③車いすが確実に固定されていることを確認します。

④シートベルトを着用します。

三点式シートベルト　→12ページ

⚠注意

- 後退防止ベルトは車いすの前輪側の縦フレームに、後側固定用ワイヤーフックは車いす後側の縦フレームに掛け、車いすを前後方向に引くようにしてください。
  誤った掛けかたをすると、車いすを確実に固定できないおそれがあります。
- 後側固定スイッチを押すとき、ワイヤー部と車いすなどに手や足がはさまれないように十分注意してください。
- 走行する前に、車いすが確実に固定されていることを確認してください。
  確実に固定されていないとブレーキや衝突のときなどに車いすが動いたり、倒れたりして傷害を受けるおそれがあります。

アドバイス

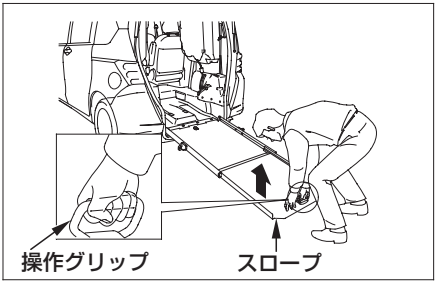
- 車いすを確実に固定しないで走行すると、ブレーキや衝突のときなどに車いすがぶつかったり、倒れたりして破損するおそれがあります。
- 後側固定用ワイヤーフックの取出し口に、飲み物などをこぼさないでください。ワイヤーが作動しなくなるおそれがあります。

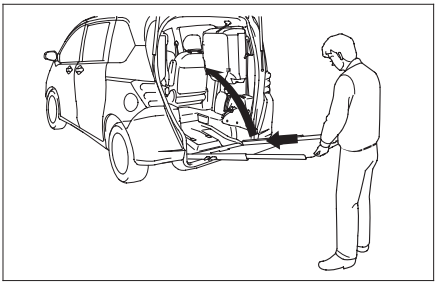
5スロープを格納する

⚠注意

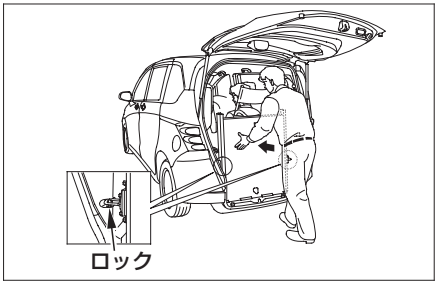
- スロープの操作は傾斜のない平らな所で行ってください。
- スロープを操作するときは手などをはさまないように十分注意してください。
- スロープは最後まで引き出した状態で使用してください。
- スロープに車いす以外の重い物を載せないでください。
  傷や破損などの原因となります。
- スロープを引き出した状態で車を走行させないでください。

①操作グリップをもって、スロープを持ち上げ、スライドさせて起こします。





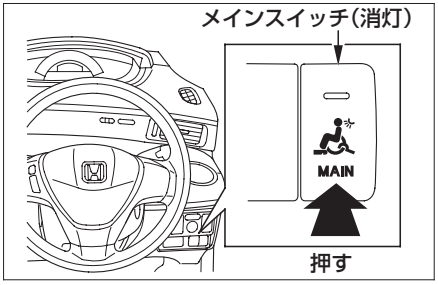
②スロープを“カチッ”と音がする（ノブの収納）まで押して左右のロックを確実にかけます。



③バックドアを閉めます。

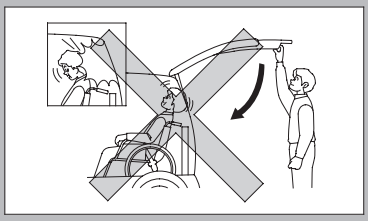
→ 6 ページ

④運転席横にある車いす固定装置のメインスイッチを押して“OFF”（ランプ消灯）にします。



⚠警告

- バックドアを閉めるときは、車いすに座っている人の頭にぶつけないように十分注意してください。



⚠注意

- バックドアを閉めるときは頭をぶつけたり、手などをはさまないように注意してください。
- エンジンをかけた状態で排気管の後方に立たないでください。
  やけどなど思わぬけがをすることがあります。
- 車いす乗車スペース内には確実に固定された車いすに座った人以外の人を乗せないでください。
  ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。
- 走行する前に、運転席横にあるメインスイッチを押して“OFF”（ランプ消灯）にしてください。

●車いすの降ろしかた

1 車いすを降ろす前に

車いすを乗せる前に　→18ページ

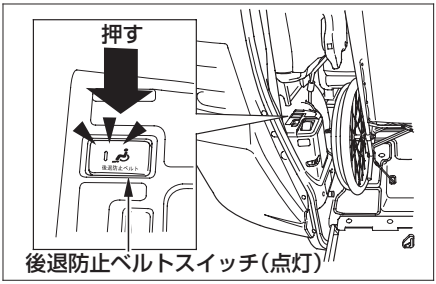
2 スロープを降ろす

バックドアを開けて、スロープを降ろします。

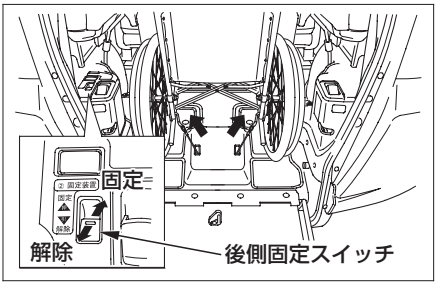
スロープを降ろす　→19ページ

3 車いすの固定を解除する

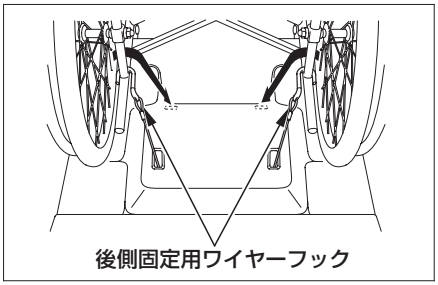
①後退防止ベルトスイッチを押して“作動”位置(ランプ点灯)にします。



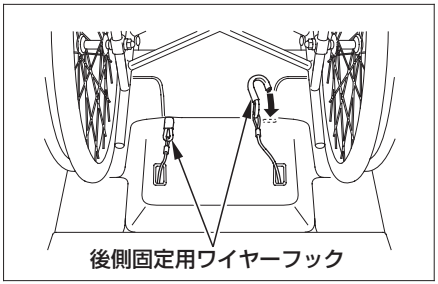
②後側固定スイッチを“解除”側へモーターの作動音が停止するまで引き続けます。



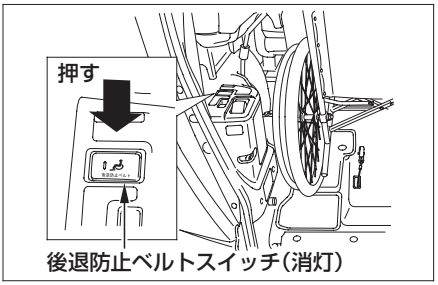
③後側固定用ワイヤーフックを車いすから取り外します。



④後側固定用ワイヤーフックを収納します。



⑤後退防止ベルトスイッチを押して“解除”位置(ランプ消灯)にします。



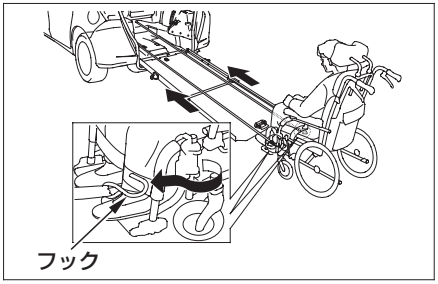
4 車いすを降ろす

①車いすの車輪のブレーキを解除し、介護する人が車いすを少し前に押した後に、そのままゆっくりと引きながら車外へ降ろします。

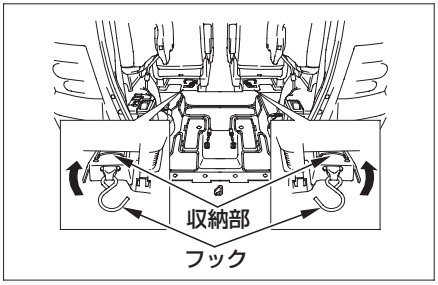
⚠注意

- 車いすを車から降ろすときは、座っている人の頭や手足の位置を確認しながら行い、車両にぶつかったり、車いすとの間にはさまれないように十分注意してください。また、介護する人が車両に頭をぶつけないように十分注意してください。
- 後退防止ベルトは車いすを降ろすときには働きません。介護する人はスロープの途中で車いすから手を離さないようにしてください。

②後退防止ベルトのフックを外し、フックを持ったまま巻き取らせます。

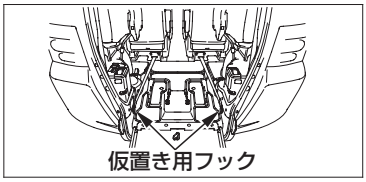


③後退防止ベルトを収納します。



知 識

●ゲート開口部に仮置き用フックがあります。



⚠注意

●後退防止ベルトの操作は、後部座席付近に人がいないことを確認して行ってください。

●後退防止ベルトを急に離すといきおいよく巻き取られますので、フック部を手に持ってゆっくりと巻き取らせてください。

●後退防止ベルトを床面に放置しないでください。乗員がつまずいてけがをしたり、ベルトを傷めるおそれがあります。所定の場所に収納してください。

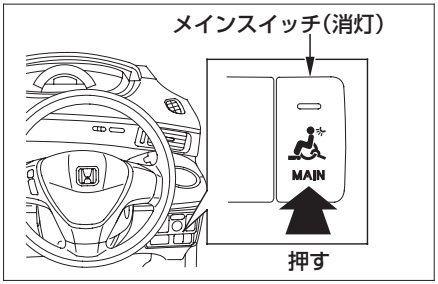
●仮置き用フックに後退防止ベルトのフックをかけたまま走行しないでください。振動などにより後退防止ベルトが外れてけがをするおそれがあります。

5 スロープを格納する

①スロープを格納して、バックドアを閉めます。

スロープを格納する　→23ページ

②運転席横にある車いす固定装置のメインスイッチを押して“OFF”（ランプ消灯）にします。



点検整備について

点検整備方式

点検整備項目		点検時期			交換時期(年)	備考
		日常点検	12か月ごと	24か月ごと		
車いす固定装置	作動のスムーズさ、異音	○	○	○		
	ワイヤーの切損、腐食	○		○		
	後退防止ベルト	○	○	○		ベルトにほつれ、すりきれ、破れなどがあるときには交換

日常点検

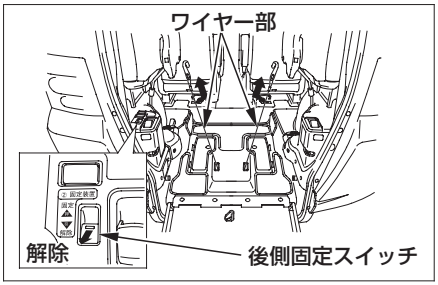
車いす固定装置の日常点検は、使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検です。

●作動のスムーズさ・異音の点検

後側固定スイッチを押して装置がスムーズに作動するか、異音がないかを点検します。

●ワイヤーの点検

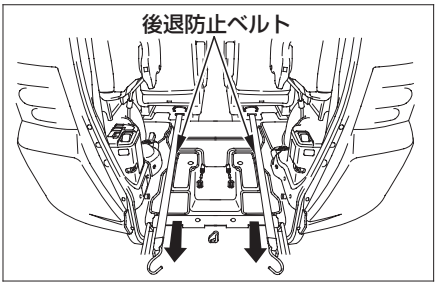
後側固定スイッチを“解除”側へ、モーターの作動音が停止するまで引き続けます。
後側固定用ワイヤーフックを引き出して、ワイヤー部に切損、腐食がないか点検します。
ワイヤーにほつれ、すりきれなどがあるときは交換してください。



●後退防止ベルトの点検

後退防止ベルトを引き出して点検してください。
ベルトにほつれ、すりきれ、破れなどがあるときは交換してください。

・ベルトが汚れた場合は、中性洗剤を溶かしたぬるま湯に布をひたしてふき取り乾かしてください。薬剤を使ったり漂白や染色は絶対しないでください。ベルトを弱めます。



万一のとき

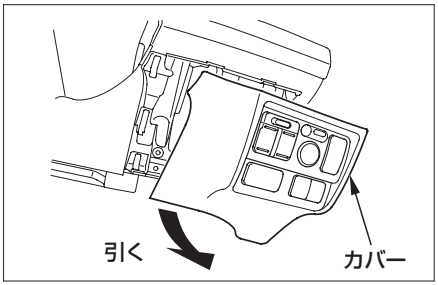
バックドアランプが点灯しないとき、後側固定用ワイヤーフック、後退防止ベルトが作動しないとき

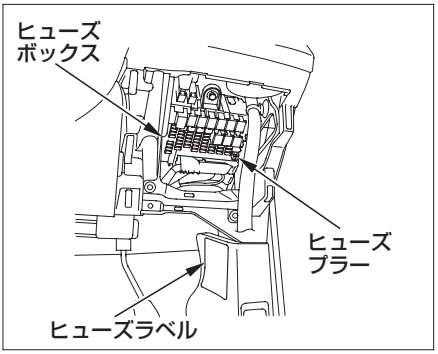
バッテリーがあがっていないときは、ヒューズ切れや電球(バルブ)切れが考えられます。

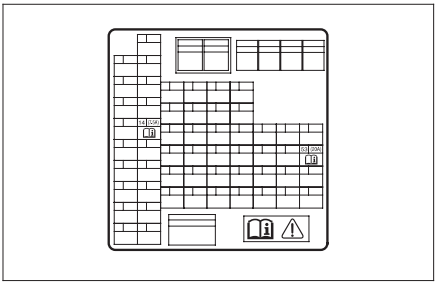
①エンジンスイッチを“0”の位置にします。
②ヒューズが切れていないかを点検します。
・故障の状況から点検すべきヒューズをヒューズラベルで確認し、点検します。
③必要に応じて、ヒューズや電球を交換します。

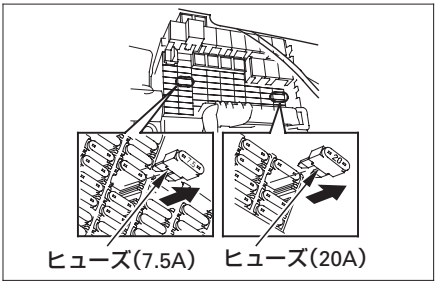
●ヒューズの点検、交換

運転席足元のヒューズの位置





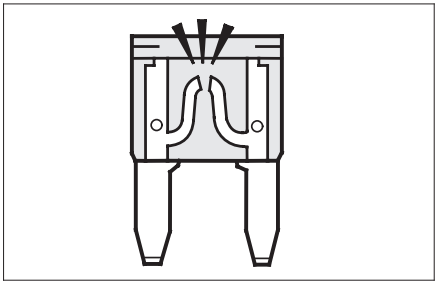




・ヒューズの装備と容量

	表示	装　備	容量
14		後退防止ベルト／バックドアランプ	7.5A
53		後側固定用ワイヤーフック	20A

ヒューズが切れているとき



ヒューズラベルの表示に従い規定容量のヒューズに交換します。

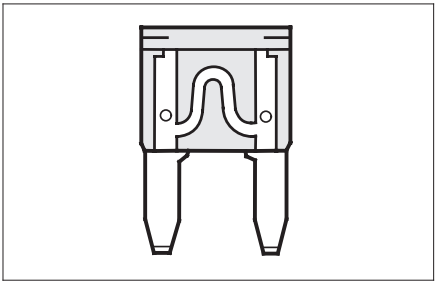
アドバイス

- 規定容量のヒューズ以外の物は絶対に使わないでください。
  配線コードなどを焼損させる原因となります。

知 識

- 交換しても、またヒューズが切れる場合は、電気系統の異常が考えられますので、Honda販売店で点検を受けてください。

ヒューズが切れていないとき



ヒューズが切れていないのにバックドアランプが点灯しないときは、電球切れが考えられます。
電球を点検し、切れているときは交換してください。

電球(バルブ)の交換　→33ページ

知 識

- 電球が切れていない場合は、電気系統の異常が考えられますので、Honda販売店で点検を受けてください。

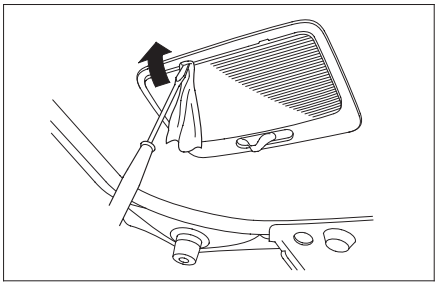
ヒューズが切れていないのに、後側固定用ワイヤーフック、後退防止ベルトが作動しないときは、装置の故障が考えられますので、Honda販売店で点検を受けてください。

車いすの固定が解除できないとき
→33ページ

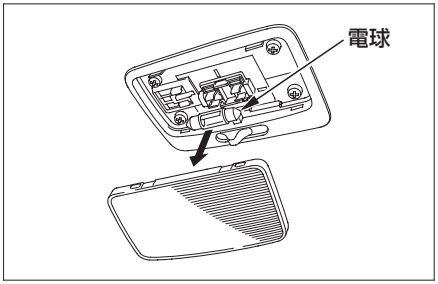
●電球(バルブ)の交換

バックドアランプ

①レンズを外します。



②電球を抜き取ります。



知 識

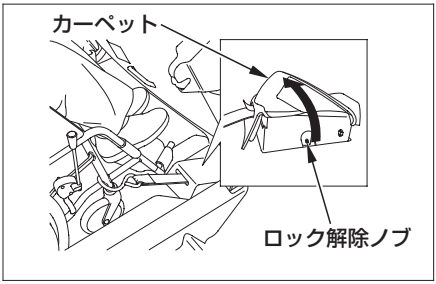
- ランプ本体やレンズを外すときは、ボディに傷を付けないように注意してください。
- 電球を交換するときはワット(W)数の違うものを使わないでください。

電球のワット数　→36ページ

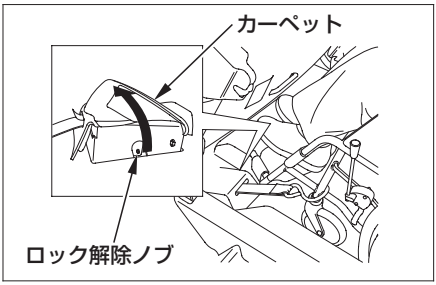
●車いすの固定が解除できないとき

装置が故障した場合、次の方法で車いすの固定を解除してください。

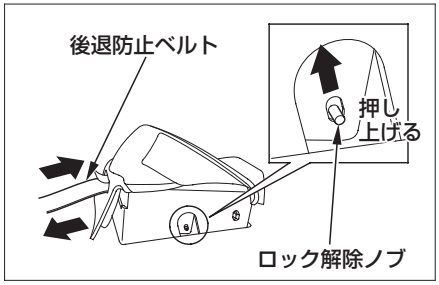
①運転席側のスライドドアを開けて、カーペットをめくりロック解除ノブの位置を確認します。



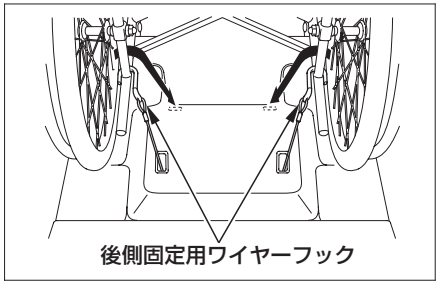
②助手席側のスライドドアを開けて、カーペットをめくりロック解除ノブの位置を確認します。



③ロック解除ノブを上に押し上げたまま、いったん後退防止ベルトを少し押し込んだ後にベルトを引き出します。
左右同じようにして、ベルトを引き出し後退防止ベルトのフックを外します。



④車いすを少し後ろに動かして、固定用ワイヤーフックを外します。



⑤なるべく早くHonda販売店で点検を受けてください。

⚠注意

- 装置が故障したときは、車いすでの乗車はしないでください。
車いすの固定が確実にできないので、ブレーキや衝突のときなどに車いすが動いたり、倒れたりして傷害を受けるおそれがあります。

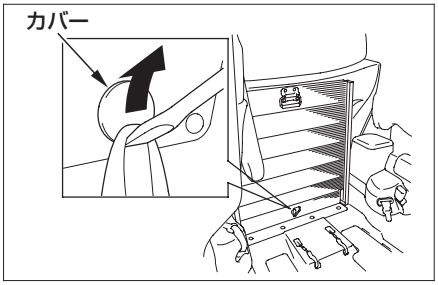
知 識

- 後退防止ベルトの張りが強く、ロック解除ノブを押し込むことができない場合は、車いすを後方へ引いてベルトにたるみを作ってから同様の操作を行ってください。

バックドアの解錠ができないとき

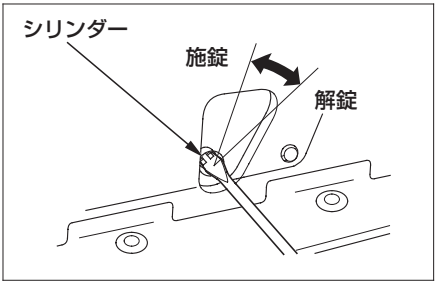
万一、バックドアが解錠できなくなった場合は、応急処置としてバックドア解錠シリンダーにキーなどを差し込み、矢印の方向に回して解錠してください。

①スロープ下部にある穴からドライバーを差し込んで、バックドア内側にあるカバーを外します。



②シリンダーにドライバーなどを差し込み右に回し、バックドアを解錠します。

バックドアの開閉　→6ページ



バックドア解錠シリンダーを左に回すと施錠します。

知　識

- 応急処置後はHonda販売店で点検を受けてください。

サービスデータ

サービスデータ

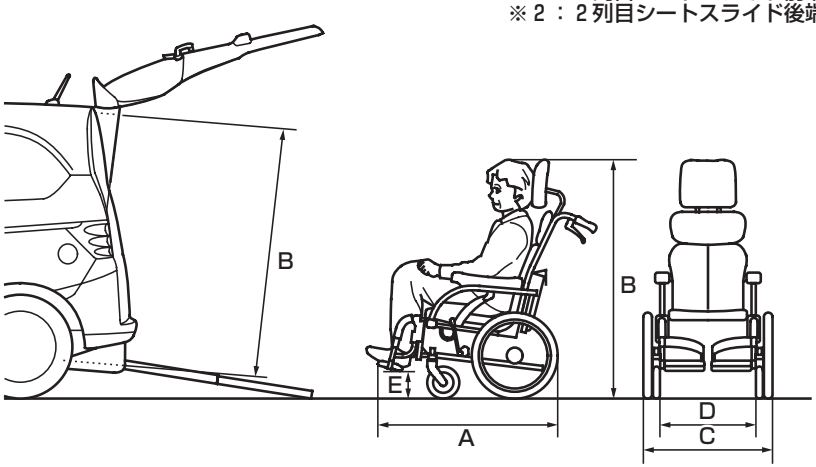
<table>
<tr><th colspan="2">項　　目</th><th colspan="3">サ　ー　ビ　ス　デ　ー　タ</th></tr>
<tr><td>電球(バルブ)</td><td>W(ワット)数</td><td colspan="3">バックドアランプ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12V-8W</td></tr>
<tr><td>スロープ</td><td>耐荷重</td><td colspan="3">200kg</td></tr>
<tr><td rowspan="5">乗　車　定　員</td><td rowspan="3">サードシート
装備車</td><td colspan="2">車いすご利用の方が
乗車される場合</td><td>5人
(車いすご利用の方も含む)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">車いすご
利用の方
が乗車さ
れない場
合</td><td>サードシート
非使用時</td><td>4人</td></tr>
<tr><td>サードシート
使用時</td><td>7人</td></tr>
<tr><td rowspan="2">サードシート
非装備車</td><td colspan="2">車いすご利用の方が
乗車される場合</td><td>5人
(車いすご利用の方も含む)</td></tr>
<tr><td colspan="2">車いすご利用の方が
乗車されない場合</td><td>4人</td></tr>
</table>

車いす乗車の目安

乗車可能な車いすのサイズは下表のようになっていますので、車いすを購入されるときに、あらかじめ確認してください。なお、下記寸法を満たしている場合でも形状によっては乗車のできない車いすがあります。

項目 ＼ タイプ	自走式、介護式
A：全長	1,110mm以下※1
	910mm以下※2
B：全高	1,315mm以下
C：全幅	660mm以下
D：前輪内側幅	350mm以上
E：フットプレート高さ	100mm以上

※1：2列目シートスライド前端時
※2：2列目シートスライド後端時



HONDA

The Power of Dreams

万一、異常や故障などの不具合が生じた場合は、
Honda販売店で点検整備を受けてください。
各所在地、電話番号については、別冊の「サービス網一覧」
をご覧ください。

30SYYU00
00X30-SYY-U001

©2008　本田技研工業株式会社